

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、  
未来をたくましく生き抜く生徒の育成

### なす事によって学ぶ大切さ

さしもの長雨も、7月半ばで上がるのではないかと予想が出ていました。梅雨明けも間近ということになります。

1年は御池の宿泊体験学習、2年生は修学旅行、3年生はさまざまな福祉体験学習、1・3年生合同での地域の方とのグラウンドゴルフなど、7月上旬には各学年いろいろな体験学習に取り組みました。

体験することの大切さは、みんな感じていることだと思います。特に、新しい体験はいろいろなことを自然に教えてくれます。

先に書いたように、体験が普通の授業とは別に設定されていると、何か特別なことに感じるかもしれませんが、実は毎日が体験の連続といってもいいのではないのでしょうか。

たとえば、授業の内容は毎日変わります。係活動や部活動もそうですし、細かいことを言えば給食も。

かりに、去年と今年で全く同じことがあったとしても、それを体験する皆さんは確実に変わっています。たとえば卒業式のように。

先生は、体験で大事なことは「なす事によって学ぶこと」と「本物に接すること」だと思っています。

でも、いくらいい体験があったとしても、それを行う皆さんが、「お客さん状態」では、そこから学ぶものは少ないですね。

毎日毎日が体験の積み重ねです。積極的に自分のこととして取り組んでいくこと（これを主体的といいます）が大切です。

### 《家庭教育学級開級式・研修会》

お知らせが遅れましたが、6月12日に家庭教育学級の開級式と第1回研修会がありました。

蒲生、今重両学級長さんを中心に、年間計画が決まりました。研修会では、須木小の本部校長先生から「家庭教育の充実を目指して」という演題で講話をいただきました。口に2画加えて別の漢字を作るというブレインキングから、「基本は同じでも何を加えるかによって意味が違ってくる。子育ても同じようなものかもしれない。」という話で始まり、「自己肯定感がある子どもは、自他を大切にすることができる。」そのために親として、子どもを丸ごと受け入れることを基本として、① 親の愛情を伝える（存在自体が嬉しい、生まれてきてくれたことに感謝）② 責任（役割）を与える（自分で解決させる、子どもができることを親が奪わない）③ 人に感謝される喜びを与える（いいと思ったことをさせる、貢献ができる子は愛される）などを考えた子育てが自己肯定感を育てることに有効ではないかというご提案でした。

研修の後半は、永久津小・中学校のPTA会長の押川さんから、「小・中学校のPTAの一体化における長所と短所」と題した講話をいただきました。永久津小・中学校では自然の流れでPTAの一体化が進み、とくに違和感なくここまで来ていること。組織を作るとき、副会長を小・中男女2名ずつ4名決め、そのうちの2名は会長代理を兼ねるようにするなどの工夫をしていることなどを説明していただきました。

須木小・中もやがて考えなければならぬことなのでしょうが、お話を聞いて何となく安心しました。

### 《1年生御池宿泊体験学習》



【キャント・ルファイア-】



【ダンポール寝床】



【火熾し体験】



【オリエンテーション】



【バイキング】

7月1日～3日に御池青少年自然の家で宿泊学習を行いました。あいにくの雨でしたが「規律・協同・友愛・奉仕」の精神を養うために、いろいろな体験に挑戦しました。写真は一部ですが全員自分の個性を十分に発揮し活動していました。自分のいいところ見つけられましたか？